

社会科（公民的分野）学習構想案

期 日 令和5年11月1日（水） 第5校時
 場 所 玉名市立玉南中学校 体育館
 学 級 3年1組 38人
 指導者 玉名市立玉南中学校 教諭 井島 啓貴

1 単元構想

単元名	第3章 2節「国の政治の仕組み（裁判所）」（東京書籍「新しい社会 公民」P.100～109）		
単元の目標	(1) 我が国の裁判の仕組みのあらましや、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 (2) 裁判員制度をはじめとする司法制度改革と、国民の裁判への参加との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 (3) 現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に参画しようとしている。		
単元終了時に期待する生徒の姿			
裁判や裁判員制度の意義を理解し、よりよい社会の形成に向けて行動しようとする生徒			
指導計画と評価計画（5時間取扱い 本時5／5）			
過程	時間	主に働かせたい見方・考え方と発問	身につけさせたい力 (知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	1	【効率と公正】 ・国民が裁判に参加することは、どのような良さがあるのだろうか。	・模擬裁判員裁判を通して、裁判の流れを理解している。(知・技) ・三審制や裁判官とともに裁判員が話し合って決めることの意義について考えを深め、表現できる。(思・判・表)
	2	【効率と公正】 ・裁判はどのように進められるのか。 ・裁判員の辞退率が上がっているのはなぜか。	・民事裁判と刑事裁判の手続きの違いについて説明することができる。(知・技) ・裁判が外圧によって左右されてはならないこと<司法権の独立>を説明することができる。(思・判・表) ・裁判員裁判に関する資料を読み取り、裁判員裁判を辞退する人が多い理由を考察している。(思・判・表)
単元を貫く課題：多くの課題がある中で裁判員制度を続けるのはなぜか。			
課題追究	3	【効率と公正】 ・裁判員制度は国民のためになっているのか、自分の考えをまとめよう。	・模擬裁判員裁判の経験や、裁判員制度の課題の資料をもとに、自分の考えを表現しようとしている。(態)
	4	・どのような根拠があれば、自分たちの主張に説得力が増すのだろうか。	・裁判員制度は司法制度改革の一環として始まり、日本の裁判の課題を克服し、国民の意見を取り入れ(目的)、より民主的な裁判(仕組み)を進めるための制度であることを理解している。(知・技)
課題解決	5本時	【効率と公正】 ・裁判員制度は国民のためになっているのか。 ・私たちは、なぜ裁判員として裁判に参加するのか。	・被告人や被害者、裁判員として参加する国民、など様々な立場に立って、裁判員制度の意義や課題、今後の在り方について考察している。(思・判・表)

2 本実践のねらいと生徒の実態

本実践（単元）のねらい																								
<p>本単元は、中学校学習指導要領社会編（公民的分野）における（C）「（2）民主政治と政治参加」、（D）「（2）よりよい社会を目指して」に関する単元で、公正な世論の形成や国民の政治への参加が不可欠なことを理解させるとともに、課題の探究を通して社会の形成に参画する意識を一層養うことが求められている。特に後者は公民的分野の最終項目でもあり、地域社会や日本の抱える課題を主体的に探究させ、自らの考えを説明・論述させるなどの言語活動を生かした学習をねらいとしている。</p> <p>本題材では、裁判所の種類や裁判の仕組みについて学習し、司法制度改革の一環である裁判員制度の意義を理解させたい。またこの裁判員制度において、課題となっているところもつかませ、よりよい裁判員制度について追究させることは、国民として政治に参加する一つの機会となり、将来、裁判員となり得る子どもたちにとって意義は大きいと考える。</p>																								
本単元における系統																								
<p>中3 「現代社会と私たち」 現代社会の見方や考え方</p>	<p>小6 「ともに生きる暮らしと政治」 憲法と私たちの暮らし</p>	<p>中3 「現代の民主政治と社会」 国の政治の仕組み</p>	<p>中3 「より良い社会を目指して」</p>																					
<p>中3 「個人の尊重と日本国憲法」 人権と日本国憲法 人権と共生社会 これからの人権保障</p>																								
生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）																								
<p>■本単元を学習する以前の内容理解 (単位：33人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査内容</th> <th>よく</th> <th>まあまあ</th> <th>あまり</th> <th>ない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「裁判」について説明できる。</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>15</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>「効率」について説明できる。</td> <td>17</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>「公正」について説明できる。</td> <td>17</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>					調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない	「裁判」について説明できる。	0	5	15	13	「効率」について説明できる。	17	8	6	2	「公正」について説明できる。	17	9	5	2
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない																				
「裁判」について説明できる。	0	5	15	13																				
「効率」について説明できる。	17	8	6	2																				
「公正」について説明できる。	17	9	5	2																				
<p>■本単元の学習に関する意識の状況 (単位：33人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査内容</th> <th>よく</th> <th>まあまあ</th> <th>あまり</th> <th>ない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「裁判員制度」という言葉を聞いたことがありますか。</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>裁判に参加したいと思いますか。</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>					調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない	「裁判員制度」という言葉を聞いたことがありますか。	7	10	6	10	裁判に参加したいと思いますか。	16	8	5	4					
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない																				
「裁判員制度」という言葉を聞いたことがありますか。	7	10	6	10																				
裁判に参加したいと思いますか。	16	8	5	4																				
<p>その理由 (自由記述)</p>	<p>【思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白そうだから、興味がある（13） ・貴重な経験になるから（5） ・一度は参加してみたい（2） ・量刑を決めてみたい（1） <p>【思わない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかりそう（3） ・大変そうだから（3） ・わからないことばかりだから（1） ・自分たちの考えでその人の人生を決めることが怖い（2） 																							
<p>■考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ○裁判について、ニュースやドラマなどで知り、興味・関心を持つ生徒が多い。 ○裁判に参加することに前向きな生徒が多いが、その責任の重さや参加することの意義についてイメージできる生徒は少なく、逆に責任の重大さについてイメージができていない生徒は参加に消極的である。 																								

3 指導に当たっての留意点

- 裁判員としての参加に消極的な生徒も、裁判の意義を理解し、自分がどのように裁判に関わるべきかを考えるように工夫する。
- 裁判員制度に肯定的な生徒も否定的な生徒も、それぞれの意見を尊重し、よりよい社会の形成について考察できるように工夫する。
- ICTを活用して資料の共有を図り、生徒が主体的に学べるよう工夫する。

4 本時の学習

(1) 目標 様々な立場から裁判や裁判員制度の意義について理解し、どのように裁判に関わるか自分の言葉で表現できる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言 ※生み出したい問い)	指導上の留意事項
導入	3分	1 単元の目標を確認し、本時の学習課題をつかむ。 これまで学習したことを振り返り、単元のゴールを確認する。 【学習課題】 裁判員制度は、国民のためになっているのか。	○学習やゴールの姿をスライドで提示し、学習の過程を視覚化する。
展開	37分	2 課題の解決に向けて活動する。 ①班ごとに発表する。 ◇司法を身近に感じることができる ◇えん罪を防ぐことができる ◇国民の視点が入り、より公正な判決になる ◇世論を反映した判決になる ◆精神的な苦痛を感じている人もいる ◆仕事に影響が出る人もいる ◆証拠資料が簡略化される ◆裁判員が十分に審議・判断ができるとは限らない ※なぜ国民が司法を身近に感じることは重要なのだろう ※証拠資料が簡略化されることは効率の面では良いのではないか ②質問や返答を班ごとに行う。 【追究課題】 私たちは、なぜ裁判員として裁判に参加するのか。 ③班で話し合い、ホワイトボードにまとめる。 ◇えん罪を防ぎ、被告人や被害者が納得のいく判決を導くため ◇裁判所が不当に被告人の人権を侵害していないか監視するため	○学習や調べたことをもとに、前時までにグループで発表の準備をしておく。 ○学習支援アプリ「ジャムボード」を活用し、発表内容を視覚的にとらえさせ、質疑や反対意見を出しやすくする。 ○発表時は、根拠・理由付けをもとに発表する。 ○スライドを印刷したものを、マトリックス図を用いて黒板に貼り、全体としての議論を視覚化できるようにする。 ○発表に対しての質問や意見を、班で共有する際にジャムボードにメモとして入力し、それをもとに全体で発表をする。 ○質問や反対意見を発表する際は、どの班のどのような意見に対して行うのか伝えてから発表する。 ○日本で起こったえん罪事件の概要や、「法の支配」での学習をヒントカードとして用意しておく。
終末	10分	3 本時のまとめ ①裁判員制度を続ける意義と今後自分がどのように裁判と関わっていくか考える。 ②これまでの学習を振り返る。	○友達の考えを聞いて、自分の考えが広がったこと、深まったことを書くように指示する。

(3) 本時の評価

評価の観点	評価基準（予想される生徒の発言・記述）
思考・判断・表現	A：被害者と被告人の立場から裁判や裁判員制度の意義について考察し、これから自分がどのように裁判に関わるべきか表現している。
	B：被害者か被告人の立場から裁判や裁判員制度の意義について考察し、これから自分がどのように裁判に関わるべきか表現している。